

高知県感染症発生動向調査（週報）

2013年 第38週 （9月16日～9月22日）

★ お知らせ

○手足口病まだまだ注意して！

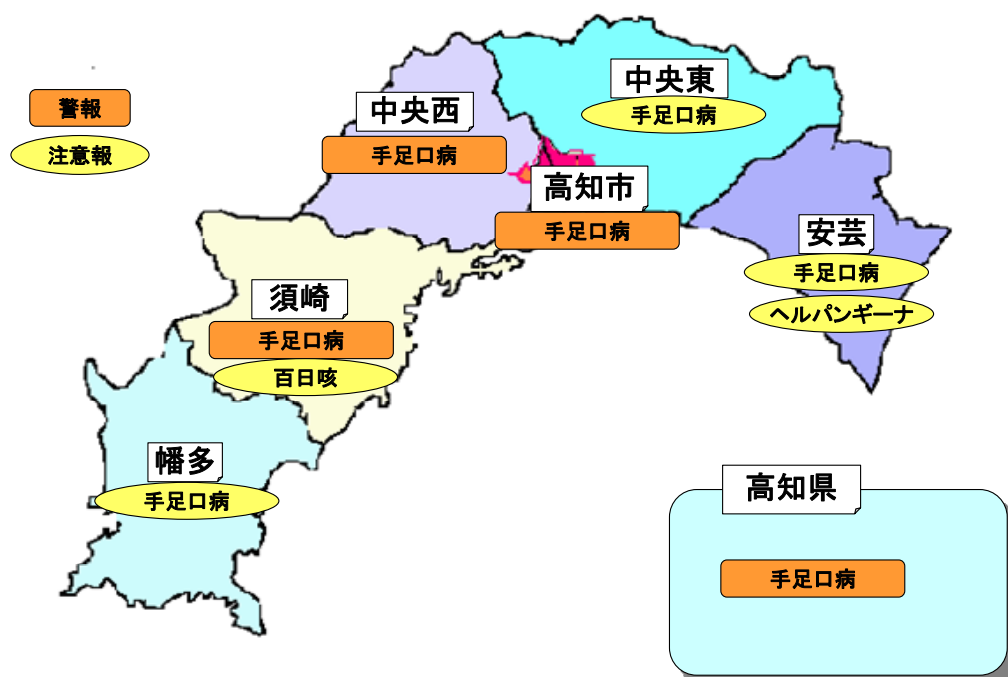
定点医療機関からの報告数は前週と比較して減少していますが、依然として警報値を超えています。この病気は、口の中、手のひら、足の裏などに発しんや水疱ができます。ごくまれに髄膜炎や脳炎などを生じることがありますので、高熱や嘔吐、頭痛などがある場合は注意してください。また、倦怠感や口腔内の痛みなどから食事や水分を十分にとれず、脱水になることもあります。こまめな水分補給を心がけてください。回復後にも2～4週間の長期にわたり便からウイルスが検出されることがありますので、幼稚園、保育園、学校など集団生活ではタオル・コップ等を共用することは避け、外出後、食事の前、トイレの後には手洗いをしましょう。

★ 県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
手足口病	↘	5.33	須崎、安芸で増加し、県全域及び須崎、高知市、中央西では警報値を、安芸、中央東では注意報値を超えている。
感染性胃腸炎	↗	1.60	中央東以外で増加している。
流行性耳下腺炎	↗	1.00	幡多、中央東で増加している。
水痘	↗	0.87	高知市、中央東で増加している。
ヘルパンギーナ	↓	0.60	安芸で増加しているが、全体では大きく減少した。

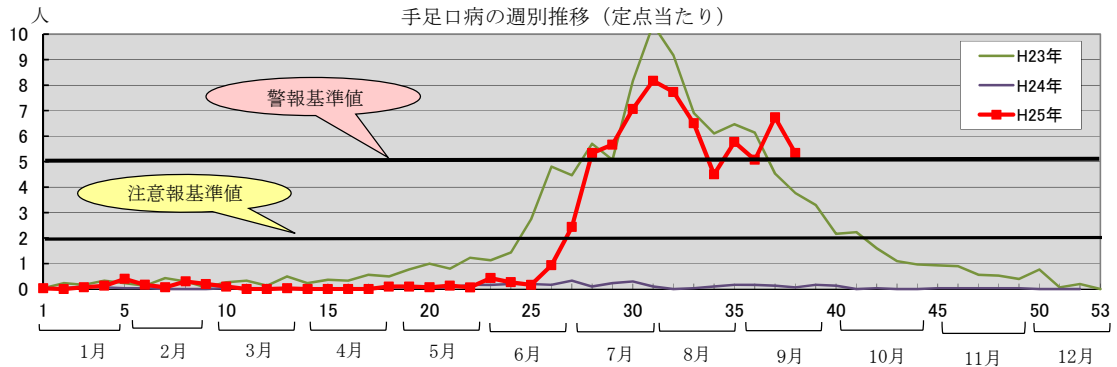
★ 地域別感染症発生状況



★ 気を付けて

○手足口病：5.33（注意報値：2.00 警報値：5.00）

定点医療機関からの報告は定点当たり5.33（前週：6.73）と減少したものの、引き続き警報値を超えています。地域別にみると、須崎（11.50：前週8.50）で増加し、高知市（6.45：前週8.45）中央西（6.00：前週8.67）では減少しましたが、警報値を超えています。また、安芸（4.50：前週4.00）で増加し、中央東（3.86：前週4.29）幡多（2.40：前週5.60）では減少しましたが、注意報値を超えています。年齢別にみると患者の88%が3歳以下になっています。



★ 病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
38	百日咳	2	男	須崎	<i>Bordetella pertussis</i>

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
37	気性気管支炎, 気管支喘息の疑い	1	女	高知市	Adenovirus 3
37	手足口病	9ヶ月	女	高知市	Coxsackievirus A6
37	手足口病	2	男	高知市	Coxsackievirus A6
37	口内炎	1	女	中央東	Coxsackievirus A6
37	手足口病	3	女	須崎	Coxsackievirus A6
37	ヘルパンギーナ	5ヶ月	男	須崎	Coxsackievirus A8
37	手足口病, ヘルパンギーナ	2	男	須崎	Coxsackievirus A8
37	気管支炎	3	男	高知市	Human metapneumovirus

★ 全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
3類	腸管出血性大腸菌感染症	1	3	60歳代(女)	高知市

★ 定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	早明浦病院小児科	クラミジア肺炎 1例 (13歳女) 某保育所でヘルパンギーナ、手足口病流行中
	JA 高知病院小児科	おたふく 3例 (2歳男、3歳女 2人：南国市)
高知市	けら小児科・アレルギー科	マイコプラズマ肺炎 2例 (4歳男、5歳女：LAMP法陽性) カンピロバクター腸炎 1例 (12歳男) 病原性大腸菌 4例 (O-6 12歳男、O-15 8歳男、O-18 22歳男、O-25 3歳男)
	三愛病院小児科	マイコプラズマ肺炎 1例 (4歳男)
	高知医療センター小児科	RSウイルス感染症 1例 (1歳男) A群溶血性レンサ球菌 (+) 1例 (21歳女)
	細木病院小児科	カンピロバクター (+) 1例 (4歳男)
中央西	くぼたこどもクリニック	手足口病 1例 (2歳男：須崎市)
須崎	もりはた小児科	手足口病の発生が続く 百日咳 1例 (2歳男：LAMP法陽性) 37w カンピロバクター腸炎 1例 (15歳男)

★ 全国情報

第36週 (9/2～9/8)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核406例

3類感染症：細菌性赤痢3例、腸管出血性大腸菌感染症180例、腸チフス2例

4類感染症：A型肝炎2例、重症熱性血小板減少症候群2例、つつが虫病1例、デング熱2例、
日本紅斑熱3例、マラリア1例、ライム病1例、レジオネラ症26例、レプトスピラ症2例

5類感染症：アメーバ赤痢16例、ウイルス性肝炎5例、急性脳炎4例、クロイツフェルト・ヤコブ病3例
劇症型溶血性レンサ球菌感染症7例、後天性免疫不全症候群21例、ジアルジア症1例

侵襲性髄膜炎菌感染症1例、侵襲性肺炎球菌感染症2例、梅毒23例、

バンコマイシン耐性腸球菌感染症3例、風しん37例、破傷風2例、麻しん6例

報告遅れ：E型肝炎1例、日本紅斑熱2例、ライム病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例、
急性脳炎7例

◆RSウイルス感染症

RSウイルス感染症 (respiratory syncytial virus infection) は、RSウイルスの感染によって発症する呼吸器感染症である。年齢を問わず、生涯にわたり顕性感染を繰り返し、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の児がRSウイルスの初感染を受けるとされる。分子疫学的な分析として国内ではタイプAが主に流行しているとの情報がある。RSウイルス感染症は乳幼児期においては重要な疾患であり、特に生後数週間～数カ月間の時期においては母体からの移行抗体が存在するにもかかわらず、下気道の炎症を中心とした重篤な症状を引き起こす場合がある。

潜伏期間は2～8日、典型的には4～6日とされる。発熱、鼻汁などの上気道炎症状が数日間続いた後、20～30%の初感染児において、下気道に影響が及ぶ場合があるとされる。特に細気管支炎となった例では、炎症性浮腫と分泌物、脱落上皮により細気管支が狭くなるに従って、呼気性喘鳴、多呼吸、陥没呼吸などを呈するようになる。喀痰の貯留により無気肺を起こすことも珍しくない。RSウイルス感染症は、乳幼児の肺炎の原因の約50%、細気管支炎の50～90%を占めるとの報告もある。また、低出生体重児や、心肺系に基礎疾患があったり、免疫不全が存在する場合には重症化のリスクは高い。重篤な合併症としては、細気管支炎・肺炎以外に、無呼吸、ADH分泌異常症候群、急性脳症等がある。平成24年の人口動態統計によると、わが国のRSウイルス感染症による死亡数は、2008～2012年の5年間で、年平均31.4人 (28～36人) と報告されており、米国では年間400例ほどの小児がRSウイルス感染症により死亡していることが推察されている。

RSウイルスの主な感染経路は飛沫感染と接触感染である。年長者の再感染例ではRSウイルス感染症と気付かれない軽症例も多数存在することから、家族間の感染や乳幼児の集団生活施設等での流行を効果的に抑制することは困難である場合が多い。

RSウイルス感染症の発生動向については、感染症法改正 (2003年11月5日施行) により対象疾患となり、全国約3,000の小児科定点医療機関から毎週報告がなされている。診断は臨床症状のみでは不可能であることから、届出基準としてウイルスの分離・同定、迅速診断キットによる抗原検出、血清抗体検出 (中和反応または補体結合反応) による病原検査が必須とされている。臨床現場で最も簡便な迅速診断キット検査については、2011年10月より、従来の入院例に加えて、乳児およびパピゾマブ製剤の適応となる患者に対しても適用されることとなり、現在は外来診療の場においても多く活用されていると推察される。その結果、これまでの対象とは異なる軽症例においてもRSウイルス迅速検査が実施される場合があるとの情報もあり、サーベイランス情報の解釈については慎重に行う必要があると考えられる。

<サーベイランス情報のまとめ>

RSウイルス感染症の小児科定点医療機関からの報告数は、例年冬期にピークが見られ、夏期は報告数が少ない状態が継続していたが、2011年以降、7月頃から報告数の増加傾向がみられるようになった。2013年の報告数は第25週から徐々に増加傾向がみられ、特に第34週 (1,281) から第35週 (2,004) にかけて急激な増加がみられた。2013年第36週の報告数は2,551例となり、都道府県別の報告数をみると、福岡県 (316)、東京都 (212)、大阪府 (208)、新潟県 (135)、山口県 (112)、鹿児島県 (112)、宮崎県 (101)、熊本県 (91) の順となっている。37の都道府県で前週の報告数よりも増加がみられている。

年齢群別割合については、2013年第1～36週の累積報告数 (35,691) をみると、0歳44.1% (0～5カ月19.7%、6～11カ月24.4%)、1歳33.5%、2歳12.7%、3歳5.3%、4歳2.5%の順であり、0歳の報告割合が最多を占め、次いで1歳、2歳と年齢順である。1歳以下で全報告数の約70%以上を、3歳以下で全報告数の90%以上を占めているのは、2004年以降変わりはない。また、2013年については、報告数の増加が始まった第25週以降の12週間では、累積報告数13,052例中0歳の報告割合が39.9% (0～5カ月15.7%、6～11カ月24.2%)、1歳の報告割合が37.9%、2歳13.1%であり、1歳の報告割合が増加している。

今後の地理的広がりや年齢分布、重症例の発生などの動向について、さらなる注意が必要である。

高知県感染症情報(58定点医療機関)

第38週 平成25年9月16日(月)～平成25年9月22日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(37週)	高知県(38週末累計)		全国(37週末累計)	
												H24/12/31～H25/9/22	H24/12/31～H25/9/15		
インフルエンザ	インフルエンザ								()	()	107 (0.02)	11,198 (233.29)	1,136,605 (231.30)		
小児科	咽頭結核熱				6		1	1	8 (0.27)	7 (0.23)	1,663 (0.53)	151 (5.03)	51,486 (16.40)		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			1	4	4		3	12 (0.40)	9 (0.30)	2,682 (0.86)	628 (20.93)	188,382 (60.01)		
	感染性胃腸炎	4	1	32	3	4	4	48 (1.60)	40 (1.33)	9,521 (3.05)	6,623 (220.77)	724,130 (230.69)			
	水痘		7	17	2			26 (0.87)	16 (0.53)	1,427 (0.46)	1,432 (47.73)	124,156 (39.55)			
	手足口病	9	27	71	18	23	12	160 (5.33)	202 (6.73)	12,362 (3.96)	2,222 (74.07)	253,287 (80.69)			
	伝染性紅斑			1			1	2 (0.07)	1 (0.03)	152 (0.05)	48 (1.60)	7,334 (2.34)			
	突発性発疹		2	4	2	1	3	12 (0.40)	20 (0.67)	1,891 (0.61)	461 (15.37)	64,869 (20.67)			
	百日咳						1	1 (0.03)	()	43 (0.01)	42 (1.40)	1,224 (0.39)			
	ヘルパンギーナ	6	4	7			1	18 (0.60)	38 (1.27)	3,361 (1.08)	1,655 (55.17)	86,521 (27.56)			
	流行性耳下腺炎		9	12				9	30 (1.00)	24 (0.80)	719 (0.23)	370 (12.33)	29,649 (9.45)		
RSウイルス感染症		1	2				12	15 (0.50)	13 (0.43)	3,469 (1.11)	585 (19.50)	39,180 (12.48)			
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	8 (0.01)	()	546 (0.80)			
	流行性角結膜炎							()	2 (0.67)	549 (0.81)	15 (5.00)	14,722 (21.62)			
基幹	細菌性髄膜炎		1						1 (0.13)	()	3 (0.01)	7 (1.00)	316 (0.67)		
	無菌性髄膜炎								()	1 (0.13)	34 (0.07)	11 (1.57)	767 (1.64)		
	マイコプラズマ肺炎		1	2					3 (0.38)	8 (1.00)	190 (0.41)	184 (26.29)	8,654 (18.45)		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			1					1 (0.13)	()	6 (0.01)	15 (2.14)	536 (1.14)		
計	19	54	159	29	32	44	337	()	()	38,187	25,647	2,732,364			
(小児科定点当たり人数)	(9.50)	(7.43)	(14.18)	(9.67)	(16.00)	(8.80)	(11.07)	()	()	()	(707.19)	()			
前週	15	55	192	37	28	54			381						
(小児科定点当たり人数)	(7.00)	(7.28)	(16.89)	(12.32)	(14.00)	(10.80)			(12.32)						

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(58定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第38週							前週	全国(37週)	高知県(38週末累計)		全国(37週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計			H24/12/31～H25/9/22	H24/12/31～H25/9/15		
インフルエンザ	インフルエンザ										0.02	233.29	231.30		
小児科	咽頭結核熱				0.55		0.50	0.20	0.27	0.23	0.53	5.03	16.40		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.14	0.36	1.33		0.60	0.40	0.40	0.86	20.93	60.01			
	感染性胃腸炎	2.00	0.14	2.91	1.00	2.00	0.80	1.60	1.33	3.05	220.77	230.69			
	水痘		1.00	1.55	0.67			0.87	0.53	0.46	47.73	39.55			
	手足口病	4.50	3.86	6.45	6.00	11.50	2.40	5.33	6.73	3.96	74.07	80.69			
	伝染性紅斑			0.09		0.50		0.07	0.03	0.05	1.60	2.34			
	突発性発疹		0.29	0.36	0.67	0.50	0.60	0.40	0.67	0.61	15.37	20.67			
	百日咳					0.50		0.03		0.01	1.40	0.39			
	ヘルパンギーナ	3.00	0.57	0.64		0.50		0.60	1.27	1.08	55.17	27.56			
	流行性耳下腺炎		1.29	1.09			1.80	1.00	0.80	0.23	12.33	9.45			
RSウイルス感染症		0.14	0.18			2.40	0.50	0.43	1.11	19.50	12.48				
眼科	急性出血性結膜炎									0.01		0.80			
	流行性角結膜炎								0.67	0.81	5.00	21.62			
基幹	細菌性髄膜炎		1.00					0.13		0.01	1.00	0.67			
	無菌性髄膜炎								0.13	0.07	1.57	1.64			
	マイコプラズマ肺炎		1.00	0.40				0.38	1.00	0.41	26.29	18.45			
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			0.20				0.13		0.01	2.14	1.14			
計	9.50	7.43	14.18	9.67	16.00	8.80	11.07			707.19					
(小児科定点当たり人数)															
前週	7.00	7.28	16.89	12.32	14.00	10.80			12.32						
(小児科定点当たり人数)															

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）

〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）

TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869